

公益財団法人とちぎ未来づくり財団 平成26年度事業報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日までの本財団の事業について、次の通り報告する。

概要

本財団は、子ども及び青少年を心身ともに健やかに育てることを目的とした「とちぎ青少年こども財団」と県民の心を豊かにし生活に潤いと活力をもたらすことを目的とした「とちぎ生涯学習文化財団」の2つの財団が合併し、平成23年4月1日に設立された。その後、平成25年4月には公益財団法人としての認定を受けた。

平成26年度は、子ども及び青少年が健やかに成長できるようにするための青少年健全育成事業、子育て支援を行うとちぎ未来クラブ事業、芸術性・公共性の高い文化振興事業、県内の歴史文化を知る上で重要な埋蔵文化財の調査研究・保存事業などを、長年培ってきたノウハウを生かし実施した。

また、青少年の健全育成や県民の文化の振興に関する県有施設の指定管理者として管理運営を行い、事業所間での連携を図るなどして、多くの利用者の方に喜んでいただくことができた。

その他、事業所のうち、しもつけ風土記の丘資料館、なす風土記の丘資料館の2施設は指定管理の最終年度となり、平成27年度以降はそれぞれ下野市、那珂川町に移管されることとなった。

I 事業の状況

1 青少年健全育成事業（公益事業1）

(1) 市町村民会議との連携強化、住民啓発促進に関する事業

市町における青少年育成活動の活性化を促進するため、青少年育成市町村民会議との協力強化に努めた。また、県・市町・団体等の実施する青少年育成事業へ共催・後援・参加することにより連携を深めた。その他、県教育委員会と共催して市町村民会議等全体研修会を実施した。

《主な事業》

- ア 青少年育成市町村民会議支援
- イ 青少年育成指導員活動支援
- ウ 啓発資料作成
- エ 青少年育成団体連携

(2) 青少年の自立と社会参加活動の推進に関する事業

主体的に判断し行動できる資質や能力を身につけるための事業と、青少年の非行防止に向けた事業を実施し、青少年の健全育成を図った。

《主な事業》

- ア 少年の主張発表大会
- イ 青少年育成県民会議表彰
- ウ 子ども読書活動推進
- エ 生き生き体験活動
- オ 親子学び合い

(3) 青少年育成県民運動推進体制の整備に関する事業

青少年育成運動の一層の推進を図るため、県や市町、教育委員会、子ども会、PTAなど関係団体との連携を強化し、鹿沼市にて県民のつどいを実施した。また「家庭の日」絵日記コンテストにおいては、児童の参加が増え、応募作品が1,773点と過去最高を記録した。

《主な事業》

- ア 県民運動推進
- イ 「家庭の日」推進

(4) 子育て支援事業

子育てと仕事の両立を図れるような体制づくりを目指した事業や、父親が主体的に子育てに関わることができるような事業を行い、社会全体で子育て環境づくりに取り組む機運の醸成を図った。

《主な事業》

ア 「子育てにやさしい事業所」顕彰

イ 父子手帳作成

2 とちぎ未来クラブ事業（公益事業1）

県民総ぐるみで、結婚を支援し、家庭を築き、安心して次代を担う子どもを生み育てる事ができる環境づくりを推進する「とちぎ未来クラブ」事業を実施した。

(1) とちぎ出会いサポート事業（結婚支援事業）

少子化対策の一環として、出会いの場となるイベントの実施、出会い応援団体が実施するイベント情報を提供するなど、独身者の結婚活動を支援した。

ア 「出会いの場」創出事業

出会いの場となるイベントを8回（主催3回、共催5回）県内各地で実施するとともに、公共団体が実施したイベントに対し、3回の後援を行った。

イ 「出会いの場」イベント情報提供事業

結婚を応援する団体等を「出会い応援団体」として募集し、応援団体が実施する「出会いの場」となるイベント情報を、とちぎ未来クラブホームページで紹介した。

（出会い応援団体登録数：29団体、36件のイベント情報を紹介）

ウ 結婚サポーター事業

地域結婚サポーター約140名及び企業結婚サポーター15名は、未来クラブの委嘱を受け、地域での結婚相談や未来クラブが実施する結婚支援事業の情報提供等の活動を行った。

また、一部の結婚サポーターは、未来クラブとの共催による出会いの場イベント開催や、縁結び事業によるマッチングの実施など、活発な結婚支援活動を行った。

未来クラブは、結婚サポーターの任免はもとより、結婚サポーター研修会及び縁結び事業を行う結婚サポーターの専門講座、現地相談会並びに情報交換会を開催するとともに、結婚サポーターへのアドバイスや、縁結び事業相談者情報の集中管理など、結婚サポーターの活動支援を行った。

(2) 「とちぎ笑顔つぎつぎカード」事業（とちぎ子育て家族応援事業）

子育て家庭を応援する企業や商店等で、割引・特典等の優待サービスが受けられる「とちぎ笑顔つぎつぎカード」を子育て家族に配布するとともに、サービスを実施する協賛店舗・施設の募集を行った。

平成27年3月31日現在の協賛店舗・施設数3,546店舗（870企業）

広域連携県 福島県、栃木県、茨城県、群馬県、新潟県、埼玉県

3 栃木県子ども総合科学館管理運営事業（公益事業1）

子どもの科学への関心を高める魅力的な事業展開を図り、科学技術普及啓発施設としての役割を果たすとともに、学校や児童館との連携を強化し、大型児童館として県内児童館への技術指導や連携事業など実践的な活動を行った。

(1) 展示場の運営および各種教室の実施に係る事業

《主な事業》

ア 展示場等の運営

展示品の解説、各種ショー、団体オリエンテーションなどを実施した。

イ 企画展の開催

(ア) 第65回企画展「夏だ！ わっしょい！ 科学館がお祭り2014」

7月21日（土）～8月31日（日）

科学技術を用いてお祭りを演出し、種々のイベントを楽しみながら、お祭りの中にある科学を体験していただいた。プロジェクトマップングなどの最新の科学技術を駆使したトリックハウスの体験で、科学の進歩を実感していただいた。

(イ) 第66回企画展「科学捜査展～今日からきみも名探偵～」

3月21日（土）～4月5日（日）

実際に警察が行っている科学捜査を取り上げ、種々の分析や鑑定を体験することで、科学技術の高さを感じていただいた。タブレットを使った捜査体験で、証拠探しから犯人逮捕までの科学捜査の過程の一部も体感していただいた。

ウ 科学技術コンクール ～ロボット・チャレンジ 2014～

ものづくりの機会の少なくなった青少年を対象に、自作ロボットによる競技会を行った。

エ 各種教室の実施

「科学工作教室」、「ミニ工作」、「電子顕微鏡教室」、「移動科学教室」、「出張サイエンスショー」、「小学生のための実験教室」、「テクニカルフェスティバル」、「科学フェスティバル」などを年間を通して実施した。

(2) プラネタリウム及び天文台の利用に係る事業

《主な事業》

ア プラネタリウムの投影

ブラックホールや、標高5千メートルにあるアルマ望遠鏡で見た宇宙など、最新の宇宙科学等の内容と季節に合わせた星空解説を盛り込んだ一般向け番組を年間4本及びアニメ等を用い易しく解説した年少向け番組を年間2本投影した。

また、天文学習の支援をねらいとした学習番組、及び「星空さんぽ」、「星と音楽のひととき」など特別番組を投影した。

イ 天文台の利用

天文台を利用して土・日曜日の夜を中心に「星をみる会」を年間24回実施した。また、昼間でも見ることのできる天体や太陽の観察を行う「天文台公開」を年間23回実施した。

ウ その他天文普及活動

天体望遠鏡のしくみを理解しながら手作りし、月などの天体を観察する天文工作教室を年間2回実施した。また、10月8日（水）に栃木県内で起こった皆既月食について、事前にその観察法をウェブページで解説するとともに、天文教室の実施、新聞記事の執筆やテレビなどのマスメディアでの広報普及を行った。

(3) 児童厚生施設としての利用に係る事業

《主な事業》

ア 体験・育成事業

常設展示「遊びの世界」を活用した「あそびのプログラム」を毎日実施したほか、約90種類の木製パズルを利用した「パズルの日」を毎月1回実施した。

また、じっくり遊びに取り組む「つきいちあそぼっくる」として、子ども達にスタッフとしての参画を促す「おしごとラボ」、交流性を高める「とり+かえっこ」等を実施したほか、幅広い年齢層の利用を促進するため、未就園児の親子を対象とした「まめっこタイム（年間12回）」、家族で参加できる「かぞくで手芸部（年8回）」を実施した。

イ 県内児童健全育成団体等への援助・指導、連絡調整等の事業

県内の児童館、放課後児童クラブ、子育てサークル等への「あそびの出前」の実施や、児童館PRのため県内児童館と連携し「第16回児童館フェア」を実施した。また栃木県児童館連絡協議会事務局として県内児童館の活動支援や連携のための強化事業、県内の放課後児童クラブへの情報提供および指導員の資質向上のための研修事業、栃木県地域活動連絡協議会の支援連携事業など、県内各種児童健全育成団体等への援助を行った。

ウ 乗り物広場の運営及び屋外遊具の管理

変わり種自転車貸し出し、ミニSLの運行とそれらの点検・整備等の実施、及び屋外遊具の安全点検を実施した。

4 栃木県立とちぎ海浜自然の家管理運営事業（公益事業1）

栃木子どもたちに海の自然や文化に触れさせる「海の分教場」、県民に多様な学習の場を提供する「生涯学習施設」としての役割を果たすとともに、「とちぎの海のふるさと」として県民に愛される施設を目指した管理運営を行った。

(1) 臨海自然教室事業

実施時期：年間

対象：栃木県内の小学校、県立盲・聾・特別支援学級（小学部）の児童

参加者数：39,453名

内容：栃木県の小学5年生を対象に、海辺での集団宿泊や自然活動など、様々な体験的な学習を教育活動の一環として実施した。また、活動プログラムの提供を行うとともに実施に当たっての指導助言などを行うことにより、安全に有意義な体験活動が行えるよう支援した。

(2) 各種団体受入事業

実施時期：年間随時

対象：学校、企業、各種団体等（視察を含む。）

参加者数：24,772名

内容：県内の学校教育・社会教育団体や企業等を受け入れ、研修、交流活動、家族の触れ合い活動等を支援した。また、施設・備品等の貸出しや活動プログラムの提供や活動に対する助言を行うことにより、安全に有意義な生涯学習活動が行えるよう支援した。

(3) 主催事業

周辺の自然環境を活かし、教育施設としての目的に合致した企画事業を実施した。

《主な事業》

ア 海浜夏まつり

イ 山の子・海の子交流キャンプ

ウ 海浜の初日の出 ほか

（全12事業、総参加者数：3,025名）

5 栃木県立なす高原自然の家管理運営事業（公益事業1）

那須高原に位置する社会教育施設として、周辺の豊かな自然を活用した青少年の団体宿泊訓練や県民の多様な団体活動を支援することにより、青少年の健全育成と生涯学習の振興を図った。

(1) 各種団体受入事業

栃木県内外の学校、社会教育団体等の研修の場を提供し、活動を支援した。

施設・備品等の貸出し、活動プログラムの提供や活動に対する助言を行うことにより安全で有意義な生涯学習活動が行えるよう支援した。

期日：通年、対象：研修を目的とした団体・グループ、会場：なす高原自然の家

内容：登山・ハイキング、野外・自然体験活動、スポーツ・レクリエーション活動、創作活動、調理活動、その他の活動

参加者数：35,747名

(2) 主催事業

周辺の自然環境を活かし、教育施設としての目的に合致した企画事業を実施した。

《主な事業》

ア エンジョイネイチャー ～初心者のための登山教室～

イ クリスマスファミリーデー

ウ 冬のファミリーデー ほか

（全8事業、総参加者数：331名）

6 東日本大震災被災者修学支援事業（公益事業1）

東日本大震災で被災した青少年の教育機会確保のため、平成23年3月11日時点において中学生以下だった青少年に対し修学支援金を支給する事業を実施した。

本事業は、東日本大震災被災者修学支援義援金（とちまる募金）を主な原資とする寄附により実施しており、事業期間は平成30年3月31日までとなる。

また、対象者1人あたりの支給額は、栃木県義援金配分委員会において、128,000円と決定されている。

平成26年度支給対象者数（支給人数） 87人

平成26年度支給時期 8月

7 文化の振興に関する事業（公益事業2） ※参考資料6参照

(1) 文化振興事業

文化振興基金果実や事業収入等の財団自主財源、栃木県補助金等を財源として、舞台芸術の鑑賞事業や参加・創造・交流型事業、講座・支援・研修・情報提供事業等を実施した。

（56事業89公演）

ア 自主財源による文化事業

財団主催の各種文化事業及び民間事業等との各種共催事業等を実施した。

《主な事業》

a 平日の贈り物シリーズ（栗田智水/フルト、新倉瞳/チェロ、姜健華/二胡、名倉誠人/マリナー）

b 平日昼間の朗読会シリーズ（名取裕子『人情馬鹿物語』）

c とちぎクラシック・カフェシリーズ（須川展也/サクソフォン、古川展生/チェロ）

d ピアノ（アリス＝紗良・オット、アントン・リュー・フォン・オーエン、須藤梨菜）

- e ヴァイオリン (日下紗矢子、庄司紗矢香(メナム・フレスターピアノ・デュオ))
- f 室内楽 (中山育代&シュターミッツ弦楽四重奏、ライター・キュッヒル&ウィーンの仲間、玉川克弦楽六重奏)
- g バンドネオン (三浦一馬 映画音楽レクシオン〜ピアノ・弦楽アンサンブル)
- h オペラ (錦織健プロデュース・ホラVol.6 モーツァルト「後宮からの逃走」)
- i 合唱 (ミラノ大聖堂聖歌隊 クリスマス・コンサート)
- j バレエ (ロシア国立ワグネル・バレエアカデミー「レッスン・オン・ステージ」)
- k フラメンコ (情熱のフラメンコ!アリシア&ネストルフラメンコ舞踊団)
- l ミュージカル (劇団四季「魔法を捨てたマジヨリン」、「ジ・サ・ス・クライスト=スーパー・スター」)
- m 演劇 (プリエール『世襲戦隊カゾクマン』)
- n 歌舞伎 (松竹大歌舞伎「中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露公演」)
- o 狂言 (狂言シリーズ第19弾!人間国宝野村万作の「狂言〜万作の会」)
- p 落語 (三遊亭円楽・春風亭小朝 二人会)
- q 和太鼓 (TAO DRUM ROCK「十七人のサムライ」)
- r ミュージカル&ワークショップ (わらび座「ブツダ」、ミュージカルワークショップ INとちぎ海浜自然の家)
- s 演劇&ワークショップ (夏休みファミリーシアター「だいだいの空」)
- t ジャズ・タップダンス&ワークショップ (親子で楽しむ「Kids meet Jazz!」)
- u 事前鑑賞講座「歌舞伎プレセミナー」
- v 講演会 (秋野暢子〜美しく健康に生きる〜)
- w NHK公開収録公演 (第24回ピアノコンクール入賞者演奏会、震災復興応援コンサート)
- x マロニエ文化学びのひろば(考古学セミナー・歴史セミナー)
- y しもつけ写真大賞展
- z その他県民文化に寄与する事業(文化情報収集・提供事業/プレイガイド運営事業等)

イ 栃木県補助金等による文化事業

《主な事業》

a 鑑賞型事業

県補助金による鑑賞型事業を実施した。

ベルリン交響楽団 ベートーヴェン・交響曲チクルス!!

ポリショイ・バレエ『白鳥の湖』 全幕

b とちぎ舞台芸術アカデミー

県補助金及び寄附金等財源による参加創造交流型文化事業を実施した。

(a) 音楽部門

第19回『コンセール・マロニエ21』(弦楽器部門・声楽部門)

第9回栃木県ジュニアピアノコンクール

第9回栃木県ジュニアピアノコンクール「課題曲公開講座」

フレッシュアーティスト・ガラ・コンサート

第7回栃木県楽友協会『第九』演奏会

学校訪問演奏会事業(小・中学校8校)

マロニエ・サウンド・クリニック2014

栃木県交響楽団特別演奏会

(b) 舞踊部門

第19回ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー 留学生オーディション

第21回ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー レッスン講座

8 埋蔵文化財の保護及び調査研究に関する事業（公益事業3）

埋蔵文化財の保護及び調査研究を行うとともに、埋蔵文化財センターの管理運営及び事業を実施した。

(1) 埋蔵文化財発掘調査事業

栃木県、国土交通省、独立行政法人都市再生機構、県内市町からの委託を受け、開発地内等の埋蔵文化財の発掘調査事業を実施した。なお、発掘調査の状況の詳細は参考資料7のとおり。

※ 発掘調査及び整理作業件数 22件

《主な事業》

ア 栃木県からの受託事業

・重要遺跡等現況範囲確認調査／重要遺跡等現地確認調査（200遺跡）

国分寺愛宕塚古墳（下野市）、那須小川古墳群・鹿島前遺跡（那珂川町）

県営圃場整備地内遺跡確認調査（茂木町）

・農地整備事業佐川南地区／南飯田前畑遺跡・佐川野上遺跡（小山市・野木町）

・横倉遺跡・横倉戸館古墳群（小山市）

・市ノ塚遺跡（真岡市）

・岩舟台遺跡（大田原市）

・大塚遺跡（芳賀町）

・堀米城跡（佐野市）

・雀宮宿跡（宇都宮市）

イ 国土交通省からの受託

・雀宮宿跡（宇都宮市）

ウ 都市再生機構からの受託事業

・テクノポリスセンター地区遺跡群／野高谷薬師堂遺跡・刈沼・刈沼向原遺跡（宇都宮市）

エ 市町からの受託事業

・小山東部工業団地第二工区／寺野東・西高橋遺跡（小山市）

・西浦・黒袴土地地区画整理事業／黒袴台遺跡（佐野市）

・大田原市遺跡詳細分布調査（大田原市）

・那須塩原市遺跡詳細分布調査（那須塩原市）

(2) 栃木県埋蔵文化財センターの管理運営及び事業の実施

栃木県からの委託を受け、埋蔵文化財センターの施設維持管理を行うとともに、埋蔵文化財の保存・活用及び埋蔵文化財に関する知識の普及に関する事業を行った。

《主な事業》

ア 埋蔵文化財に関する情報収集及び提供

遺物・図面・写真等の貸出や「埋蔵文化財センターだより」（年3回）・「壁新聞」（年2回）

・「とちぎ発掘調査成果情報誌」（年1回）を発行した。

イ 埋蔵文化財に関する普及・啓発

発掘調査報告会や現地説明会等の開催、学校等の施設見学及び出前事業、埋蔵文化財センターの一般公開、各種講座の開催を通じて、広く県民に埋蔵文化財保護の重要性やその保存・活用についての理解や関心の向上に努めた。

ウ 研修

保存処理研修会及び埋蔵文化財担当者研修会を開催した。また教員及び生涯学習担当職員を対象とした埋蔵文化財活用のための基礎講座を実施した。

エ 埋蔵文化財に関する出土品の保存処理

オ 埋蔵文化財に関する出土品の資料管理

9 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館管理運営事業（公益事業3）

周辺に存在する古代下野国の貴重な史跡、資料館展示品等及び当財団の人的資源を活かし、地域の歴史資料館として、郷土の歴史と埋蔵文化財保護の重要性を広く県民に伝えた。

《主な事業》

(1) 展示関係

常設展示のほか、春季及び秋季特別展、冬季企画展、ミニ企画展等を行った。

入館者数：24,908人

(2) 講演会・講座・展示解説会

開館記念講演会、特別展講演会、特別講演会及び各種講座、特別展の展示解説会を開催した。

(3) 体験教室

「風土記の丘探検隊！！」「勾玉・石斧づくり」など各種体験教室を実施した。

(4) 見学会

県外や県内の遺跡を見学する見学会を実施した。

(5) その他

希望する学校（社会科見学）・団体への周辺史跡の案内・解説や、出前授業・出前勾玉づくり教室を実施した。

10 栃木県立なす風土記の丘資料館管理運営事業（公益事業3）

周辺に存在する古代那須国の貴重な史跡、資料館展示品等及び当財団の人的資源を活かし、地域の歴史資料館として、郷土の歴史と埋蔵文化財保護の重要性を広く県民に伝えた。

《主な事業》

(1) 展示関係

常設展示のほか、春季・夏季・冬季企画展及び秋季特別展、巡回展を行った。

入館者数：20,794人

（施設入館者 19,003人に、指定管理協定により、会場を大田原市なす風土記の丘湯津上資料館とし、当館が企画立案・実施した特別展の入館者数 1,791人を含む）

(2) 講演会・講座・展示解説会

特別展記念講演会、特別展記念鼎談・館長講演会及び各種講座、特別展・企画展の展示解説会（ギャラリートーク）を開催した。

(3) 体験教室

「ちょっと特別な勾玉づくり」「風土記 夏祭り！」「風土記 秋祭り!!」「風土記 大感謝祭!!!」など各種体験教室を実施した。

(4) 見学会

県外や県内の遺跡・博物館を見学する見学会を実施した。

(5) その他

希望する学校（社会科見学）・団体への周辺史跡の案内・解説や、出前授業・出前勾玉づくり教室を実施した。

11 図書の刊行頒布事業（公益事業3）

埋蔵文化財センターの発掘調査報告書、しもつけ・なす両風土記の丘資料館の特別展図録など、埋蔵文化財の調査や普及啓発に関する図書類を刊行頒布した。

本年度刊行図書一覧

書 籍 名	発行部数
研究紀要第22号	60
栃木県埋蔵文化財発掘調査報告書	
第364集 下野国分尼寺跡Ⅱ	99
第365集 頼朝塚古墳群	19
第366集 神田城南遺跡	21
第367集 薬師堂遺跡	3
第368集 くるま橋遺跡	4
第369集 北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡	20
第370集 緊急雇用創出事業 西向遺跡	14
しもつけ風土記の丘資料館第28回企画展図録	350
なす風土記の丘資料館第22回企画展図録	250
合 計	840

12 栃木県総合文化センター管理運営事業（収益事業）

県内文化振興の拠点施設である栃木県総合文化センターの利用受付・打ち合わせ、利用者及び来館者サービス事業、施設維持管理業務、危機管理対策及び事業評価を行った。

《主な業務》

(1) 施設利用受付・打ち合わせ業務

ホール、ギャラリー、会議室、各種練習室等の利用受付及び打ち合わせを行なった。

(2) 利用者及び来館者サービス業務

催し物案内の発行、ホームページやメールマガジン等による催事情報の提供を行うとともに、文化団体や企業向けに施設利用促進を図る広告、広報活動を行なった。

施設利用のアドバイスのほか、利用者のニーズに合わせてケータリングや会場設営などのサービスを提供する「らくらくサービス」事業を実施した。

(3) 施設の維持管理業務

利用に支障が生じないよう各種設備の保守点検を定期的に行うとともに、快適な館内環境を維持するため関連設備・備品等の適切な管理を行なった。また、必要に応じ工事及び修繕を行った。

(4) 危機管理対策

来館者の安全を守るため、防災設備等の保守点検及び消防訓練（避難誘導コンサート）を実施するとともに、危機管理マニュアルを整備した。

(5) 事業評価

利用者に快適にご利用いただくため事業評価を実施し、更なるサービス向上に努めた。

13 生涯学習の振興に関する事業

財団の自主事業として、県民の学習ニーズを考慮し、当財団のソフト・ハードを活用した講座を企画・運営した。

(1) 考古学セミナー

埋蔵文化財センターが、栃木県内の遺跡から出土した遺物を中心に、道具の移り変わりにつ

いての考古学講座を開催した。

4回実施 参加者数：214名

(2) 風土記の丘・歴史セミナー

しもつけ風土記の丘資料館・なす風土記の丘資料館が、それぞれの地域の古墳時代後期から終末に関する歴史講座を開催した。

2回実施 参加者数：283名

14 広報活動に関する事業

- (1) 新聞や情報誌等広報媒体による活動として、施設や財団事業案内の広報を行った。
- (2) 財団発行の広報誌による活動として、「青少年とちぎ」（年3回発行）や「催し物案内」（年6回／総合文化センター）、「埋蔵文化財センターだより」（年3回／埋蔵文化財センター）を定期的に発行し、関係機関及び県民に配布した。
- (3) インターネットによる活動として、財団ホームページに各事業所の更新情報を掲載したほか、総合文化センターの事業等の最新情報を、メールマガジンにて、毎月1回2,298名の登録者（3月31日現在）に発信した。

15 指定管理者制度への対応

「栃木県総合文化センター」「栃木県子ども総合科学館」「とちぎ海浜自然の家」「なす高原自然の家」の4つの施設では、今年度から新たに第3期の指定管理期間が始まった。

指定管理委託料は、前期と比べると、4施設で合計約5千万円の減額となり、施設の運営には苦慮したが、収益確保、経費削減、利用者数の増加に努めた。今後もこれまで以上に『収益確保』『経費削減』『サービス向上』『組織の活性化』『事業所間の連携』など積極的に取り組んでいく。

また、「しもつけ風土記の丘資料館」「なす風土記の丘資料館」の2施設については、今年度で指定管理の期間が終了した。両施設については、次年度から、それぞれ下野市・那珂川町への移管が決まっている。

指定管理者の指定状況

栃木県総合文化センター	平成26年4月1日～平成36年3月31日(10年間)
栃木県子ども総合科学館	平成26年4月1日～平成31年3月31日(5年間)
栃木県立とちぎ海浜自然の家	平成26年4月1日～平成31年3月31日(5年間)
栃木県立なす高原自然の家	平成26年4月1日～平成31年3月31日(5年間)

16 その他目的を達成するために必要な事業

県内24の公立文化施設で構成する栃木県公立文化施設協議会の運営事務局として、全国他県の動向など、各種情報の提供及び管理・技術関係の研修会を開催するなど、県内の公立文化施設の運営に関して指導・助言を行った。

また、昨年に引き続き、389施設が加盟する全国公立文化施設協会関東甲信越静支部に設置される、管理部会の運営事務局（任期3年）として、管理業務関係の研修会の開催や、管理業務全般に関する調査・研究及び情報交換に関する事務を行った。